「介護は人間同士のぶつかり合い」

新人職員の熱き想い

新人介護職Web座談会
介護の魅力・楽しさを語る

後期高齢者人口が約2200万人になる2025年では国民の4人に1人が75歳以上になり、介護人材が現在の2倍以上必要だといわれている。20年4月に入社した新人介護職員は、コロナ禍という特殊な状況での入社となった。これからの介護を担う新人4人に、介護の魅力と業界への希望をテーマにしたWeb座談会を行った。

▲コロナに負けない！　ガッツポーズ

「介護に楽しさ、面白さを感じた」

――介護業界で働こうと思ったきっかけはなんですか。

鈴木　学生時から、地域包括支援センターなど、地域と密接に関係している場所で働きたいと思っていました。その中でミアヘルサは地域包括支援センター、サービス付き高齢者向け住宅、デイサービスなど色々な事業を運営しており、そこに強く惹かれました。また、キャリアアップのための支援も手厚い印象を受け、施設見学では、入所者一人ひとりの個性を尊重していると感じました。

黒田　採用時の全3回の面接で、回を重ねるごとに会社の良い雰囲気と、介護への熱い想いが伝わったからです。最終面接では自分の疑問点や不安を全て解決できました。介護だけでなく、経営、育成、専門などのキャリアアップがあり、またヒューマングループ全体で様々な事業展開をしていることにも興味を惹かれました。

春日井　就活で、業界や職種選びから迷いがありました。会社説明会に行った際、介護業界がすごく楽しそうというイメージを持てたのです。選考の中で施設見学があり、施設のスタッフの雰囲気、話、人柄、入所者の明るさ、全てに良さを感じ「安心して働ける環境だ」と思いました。

奥薗　就活時の合同説明会で、自分の大学の卒業生が介護業界で働いていることを知り、介護の仕事について聞いたところ、面白そうと感じたからです。施設見学に行くとプールや畑、池、体育館などがあり、1つの街が1つの施設で完成していると思いました。僕の中での「介護観」が良い意味で崩された瞬間でした。

――入社してから今までで、印象的なエピソードはありますか。

鈴木　入社したばかりですが、利用者からとても受け入れられていると感じます。声掛けの際、利用者から「今日も大変ね」と気遣っていただけることが嬉しいです。

黒田　利用者から「これはできない」、「どうせ私なんか」などのマイナス発言を言われ、とても戸惑ったとき、先輩トレーナーから「明日への活力を生むような声掛けをしてみて」とアドバイスをいただきました。中々難しいところもありますが、日々考え、悩みながら業務に励んでいます。

鈴木　4～5月の2ヵ月間は自宅研修になりました。スケジュールを組んでいただき、教材や動画などで、介護現場の予習に専念しました。

黒田　本来東京で行うはずだった入社式と合同研修が西と東で分かれました。東西をWebでつないだ初のオンライン研修もありました。

春日井　Zoom研修がありました。内容は会社概要、服薬の仕方、介護記録の書き方、感染症対策などです。

――受けた研修の中で印象に残る研修は。

オンライン研修や高齢者疑似体験

春日井　担当している利用者から「洗濯してくれてありがとう」「お茶ありがとう」と、何度も感謝の言葉をもらうことで、さらなるやる気につながります。

奥薗　利用者から「あなたの手は大きいね」と言っていただけたり、僕の声を聞いただけで「奥薗さんだね」と判断してくれたりと、何かしら僕の特徴をとらえてくれることが嬉しいです。

――コロナ禍の中での入社ということで、色々と大変ではないですか。

鈴木　認知症の方に対するテキストが役立ちました。現場で認知症利用者に接する際「何か不安なことがあるから、こういう行動をするんだな」と分かり、寄り添う気持ちが自然と生まれました。

黒田　「介護現場の1日」という映像を見て、自分の意見を言う研修です。どこに違和感を持つべきか、ということが理解でき、現場で役立ちました。

春日井　あいさつ研修です。あいさつが高齢者にどう影響を与える

〈55面につづく〉

奥薗智也氏（22歳）
一般財団法人日本老人福祉財団
神戸〈ゆうゆうの里〉
（兵庫県）

春日井沙月氏（23歳）
メディカル・ケア・サービス
愛の家グループホームみずなみ
（岐阜県）

黒田夏加氏（23歳）
ヒューマンライフケア
生野の宿
（大阪府）

鈴木真穂氏（23歳）
ミアヘルサ
日生定期巡回サービス
（東京都）

＜54面からつづく＞

のか、コミュニケーションがどれだけ大事かを、改めて学べました。現場では、あいさつしたことによって、不穏な利用者がパッと笑顔になり、服薬などを無事に済ますことができました。

奥薗　高齢者疑似体験スーツを実際に身に着け高齢者役となり、他の職員から介助を受ける研修です。座る動作1つ取っても、どこに手を添えるべきか、こうしたらもっと介助しやすくなるのではないか、と考えることがたくさんありました。現場の介助においてとても役立つものでした。

――業務のココが大変！を教えてください。

▶左から、黒田氏のレクの様子、入社時の目標

利用者家族の生活も豊かに

鈴木　先輩スタッフの業務をこなす速さに全然ついていけないと感じます。コツや流れを覚えることが必要です。

黒田　利用者とのコミュニケーションです。例えば、数秒後に同じことを言われてしまう。「帰りたい」と言って玄関先に行く利用者に、きちんと説明をして、一旦は室内へ戻ってもらうのですが、また玄関先まで行って「帰りたい」を繰り返してしまう方がいます。どのように気持ちを落ち着かせるべきか初めは戸惑いました。

春日井　やらなければいけない業務が次から次へと増えると焦りが生まれ、たまにミスしてしまうときがあります。また、夜勤の時間に慣れておらず、体力的にきついときもあります。

奥薗　働いている部署で担当している利用者が約90人いらっしゃるので、お名前を覚えるだけでも大変です。また一人ひとりのADLや病気、特徴なども覚えなければなりません。

――入社してからまだ日が浅いですが、自分が特に成長した点はありますか。

鈴木　食事介助や車椅子からベッドへの移乗など、だんだんと介護スキルが身に付いた点です。

黒田　利用者から「できない、あなたやって」と言われたとき、以前は黙り込んでいました。今は「じゃあ別の方法でやってみよう」と提案できています。利用者も「分かった。やってみる」と言ってくださります。

春日井　コミュニケーション力です。利用者やスタッフとの会話で、以前は「そうですね」と味気ない会話だったが、今は「体調どう?」、「これやってみたの?」など、自分から聞くことが増え、会話が楽しいと感じています。

　また、先を見すえた行動を心掛けているので、忙しいスタッフがいると率先して手伝うことができるようになりました。

奥薗　僕もコミュニケーション力です。以前は日常会話での声が小さく、人見知りしてしまっていました。でも、耳が遠い人などに挨拶する際、声が小さいと聞こえないかもしれない。今は日常会話での声も大きくなり、街中を普通に歩いている方にもあいさつしてしまうほどです。

――ずばり介護の魅力とは。

鈴木　まず、利用者の生活を豊かにするお手伝いだというところです。私たちのサポート1つあれば口からちゃんとご飯が食べられ、歩行介助を行えば買い物に行ったりデイに通ったりできます。次に、利用者の家族の生活も豊かにできること。祖父が認知症で大変だったとき、介護職の人にとても助けていただいた経験があります。当時は、私の母が祖父の介護をするため、祖父宅に毎週末通っていました。介護を必要とする人が身内にいることのたいへんさを実感しました。そういった家族の生活の負担を、少しでも軽減できると思います。

　そして、介護が目に見えて人の役に立つ仕事だということです。

黒田　1番は、介助したとき、利用者から「ありがとう」の言葉を貰えることです。とても嬉しいし、その反応をいただくということは、介助や接し方が正解だったと認識できます。ただ、介護の仕事は良くも悪くも利用者の反応が目に見えてしまう。反応によって、こういう介助ではダメだった、この方法では大丈夫だった、とわかるので。

　それから、自分で色々話題や接し方を広げていくことができる。新規の利用者が来た際、趣味や生活など色々な話題を投げかけ、偶然1つの話題に反応を示された。そういう場面で、会話が広がる話題を自分で提供できたことに、嬉しさとやりがいを感じます。

春日井　私は、利用者が良くなっていく過程を見られるという点に魅力を感じます。自立支援という前提の中で、利用者の願いをどうやったら叶えられるのかを考える。考えたケアを実践したとき、実際に利用者が歩けるようになったり、さらには買い物に出かけられたりと、様々な過程を見ることができます。

　介護は自由が利く仕事だということも良い点だと思います。日勤や夜勤のタイミングを選べますし、施設によっては日勤のみのところもある。

奥薗　僕は、利用者の生活が豊かになるとともに、自分の生活も豊かになったと感じる点です。現在は新型コロナでマスクをしていて、表情があまり読み取れない。しかし、コミュニケーション時、目を見開くなどの些細な表情の変化を、利用者は見ていてくれる。僕より僕のことを利用者は見ているのだ、と気づいたとき、とても嬉しかったです。

　そして、介護は良くも悪くも人間らしい部分が見えること。やはり福祉は人間同士のぶつかり合い。そういったことから学べることがたくさんあります。自分が思うことをやってみて、常に工夫を凝らしていくことが大事

＜56面につづく＞

マスク越しでのコミュニケーション

◀鈴木氏、楽しく会話中の様子

▲上から、春日井氏の食器洗い中の様子、楽しく歌を歌う姿

新人介護職Web座談会
介護の魅力・楽しさを語る

責任の重さ痛感 新人、切に訴える

＜55面からつづく＞

だと思います。

――今後こうしたら介護業界に人材が流れてくるのでは、というアイデアはありますか。

黒田　大学時代、1ヵ月の介護実習に行ったことがあります。そのときに介護の印象が大きく変わったのをよく覚えています。行く前は不安な気持ちもありましたが、いざ行くと、利用者との会話がとても楽しく、やりがいのある仕事だと実感できました。実際に介護の仕事を体験することで、介護に対する偏見を無くすことができると思います。介護職を1度体験できる機会を世の中に増やせたらと思います。

奥薗　一時的に増やすのであれば給料を上げるのが手っ取り早い。しかし長期的に介護業界へ人材を流れ込ませるには、小学校・中学校の授業の中で、介護の授業を組み込んでみるのも1つの手だと思います。授業内容が良ければ、介護に良いイメージを持ってくれるはず。また、介護業界の会社名を世間一般に広めることも重要だと思います。例えばオムツメーカーが野球チームを作るとか。

――介護業界は仕事の負担が重く、待遇が良くないと聞きます。

鈴木　今後の自分の頑張り次第によるのでは、と思います。もし私が独り暮らしなら、給料がちょっと少ないかも、と感じる可能性はありますね。職場が東京なので。

黒田　現時点での給料で特に不満はないです。世間一般的に見るとキャリアアップという点では、給料があがりにくい業界かな、とは思います。

▲楽しく料理中の奥薗氏

春日井　私は独り暮らしで、給料に対して不満はありません。夜勤手当、地域手当があるので満足しているのかなとは思います。

奥薗　仕事の責任が重いのに待遇が良くない、というのは妥当だと思います。介助中のちょっとしたことで、利用者の状態を悪化してしまう可能性もある。

――介護を目指す後輩たちへ向けてメッセージをお願いします。

鈴木　仕事の中で、自分がつらいと感じる気持ちが生まれてくることもあると思います。でも、それをきちんと解消できる環境があれば続けていける。職場の人間関係がしっかりしていれば、業務がきつくても頑張れる！介護には様々な職場があります、グループホーム、小多機、定期巡回サービス、特養、老人ホーム…。自分がどの職場に合っているのか、見極めが必要です。学生時、特養に実習に行ったとき、特養で働くことは私には難しいと感じました。介護職で大事な「ケアを頑張るぞ」という気持ちを持って、様々な職場を見学してほしいです。

黒田　介護職では、利用者にどうアプローチしていくかが必要。毎日が挑戦で、多方面からアプローチすることは自分の成長にもつながる。こういう介護がしたい、こんな先輩になりたい、といった意識を持って、業務にあたってほしいです。

春日井　私の職場は常に笑顔があふれています。介護職でよく言われている3K（きつい、汚い、危険）だけではないことを、実習などに行って体感してほしいです。

奥薗　介護は24時間業務なので、長期休みなどが取りづらい傾向があります。学生のうちに色々な所へ行ったり、色々な人と出会ったりして、自分の引き出しを増やしましょう！利用者と接する際、経験が役立って色々なアプローチができるようになりますよ。

――1年後の目指す姿は。

鈴木　自分の力で業務に従事できるようにします。利用者の微妙な変化にも気づけるようにし、車椅子の座り方1つでも工夫してケアしていこうと思います。

黒田　レクの得意ジャンルや、傾聴を必ず心掛ける姿勢など自分だけの強みや売りを見つけます。

春日井　自分が発見したケアを利用者に実践し、状態改善する姿を見たいです。認知症ケアも深めていきたい。

奥薗　その人の人生に寄り添うということを常に忘れず、自分の良さを活かした介護を実践していきたいです。

法人紹介

■ミアヘルサ（東京都新宿区）

「少子高齢化社会の課題に挑戦し、地域社会を明るく元気にする」をミッションとして掲げ、保健・医療・介護・保育・食品・福祉をつなぐ「地域包括ケアシステム」の実現を目指す。2020年３月、ジャスダックに株式上場。「日生薬局」のブランドで都内を中心に首都圏で調剤薬局を展開している。

■ヒューマンライフケア（東京都新宿区）

教育を基点に幅広い事業を展開するヒューマングループの介護部門として、1999年より介護事業をスタート。デイ、有料老人ホームなど、全国約180の事業所で展開。独自の認定資格「ケアテクニカルマイスター」の取得を全スタッフに奨励している。

■メディカル・ケア・サービス（さいたま市）

2017年10月にＧＨの運営居室数が日本一となり、現在では、全国300ヵ所以上で介護施設を展開。設立当初から「認知症ケア」に一貫して取り組む。中核を担うのが認知症高齢者の介護に対応したＧＨ「愛の家」。

■一般財団法人日本老人福祉財団（東京都中央区）

介護付有老〈ゆうゆうの里〉を全国に７拠点運営。健康な時から最期まで、必要に応じて、住まい・設備、生活支援、介護、医療、食事、運動、アクティビティなどのサービスを、ケアマネジメントに基づき継続的一体的に提供する終身利用型の相互扶助システムを確立している。